

---

# 人斬り

仙人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

人斬り

### 【NZコード】

N3481D

### 【作者名】

仙人

### 【あらすじ】

江戸時代後期の元治元年6月5日に、京都三条木屋町の旅館池田屋で京都守護職配下の治安維持組織である新選組が、潜伏していた長州藩の尊皇攘夷派を襲撃した事件である池田屋事件。この時、一人の青年が新選組隊士と壮絶な斬り合いを演じ、そして死んでいった。この物語は、その青年の激動の一年間を描いた物語である。

## 第壹話・始まる前の始まり

風通しよのよい、冬ではまるで役に立たない蒲団が夜風を取り込んで、乾いた心をさらりと乾燥させていく……決闘前には少々辛い夜だ。文久2年（1862年）、まだ年のころ十九になつたばかりの事だつた。

実家は京都で道場を開いている。

こう言つておけば大概の群衆は私のことを強くて立派で頼れる人間だと勘違いしてくれる。

しかし、實際の私はといふと、剣術の腕前は平平凡凡、お世辞にも立派とは言えないみなりと顔立ち、自分以外の為に剣を振いたいとも思わない頼れない性格、とこんな感じである。

そんな私がどこをどう間違えたのか、さるお武家に決闘を申し込まれてしまつた。

場所は鴨川のほとりといつことらしき。

そして、使う得物は真剣。

そんな何の変哲もない私が何故試合わなければならぬのか、経緯はいたつて簡単。

どれだけ才能がなかろうが、私は一応武士の生まれで、そして何より道場の師範の息子なのだ。

ゆえにそれなりの物を腰に下げていきたいといつ、なんともちんけな欲望があつた。

そこで一体どうしたらいいのかと考えた結果が、賭け。

なるべく弱そうな奴に片っ端から声をかけ、下げる刀を賭けて戦う。

弱そうな奴は大抵弱く、どうにか自分でも倒せる程度のものだつた。そうして何人も斬つていけば、いつか業物にたどり着くのではと思っていた、あの頃の私は。

しかし、弱い奴が立派な業物をのうのうと腰にぶら下げておけるわけがない、なぜなら私のような輩がごまんといいていつ盗まれるとも限らないからだ。

そんな当たり前のことに気がついた時は、すでに町の御武家に睨まれて、あまつさえ因縁をつけられた後だつた。

これが、そんなに強くもない私がきつちり鍛錬を行つてゐる御武家と試合う理由。

この経緯を思い返すだけで、はらわたが煮えくりかえつて自分自身をのしてやりたい気分になるが、そんなことをしたところで後の祭り、状況は何も変わりはない。

もつ私はこの短かつた生に別れを告げて死ななければならぬのだ。

短かつた……終りがこんなにも早く、あつけない形で訪れるなんて夢にも思わなかつた。

こんな状況に立たされて初めて、父の言つことを聞いて剣術にしつかり取り組んでいれば、と後悔の念を抱いた。

ぱ。  
せつまけな反抗心一つで、あの時の父の言葉をまだ忘れていない。

冷たい風が少し気になるが、もう寝ないと明日の戦に響いてしまう。

覚悟はまだできていない。  
ださう、今はもう寝よう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3481d/>

---

人斬り

2010年10月22日00時29分発行